



一般社団法人 電波産業会
Association of Radio
Industries and Businesses

No.811 2011年11月21日

ARIBからのお知らせ

第 82 回規格会議開催のお知らせ

次回の第 82 回規格会議の開催日をお知らせいたします。
規格会議委員の皆様のご出席をお願いいたします。

記

- 1 日時 平成 23 年 12 月 6 日(火) 午後 2 時から 4 時まで
- 2 場所 東海大学校友会館 望星の間 (霞が関ビル 35 階)
東京都千代田区霞が関 3-2-5
- 3 議案 (予定)
 - (1) IMT-2000 DS-CDMA and TDD-CDMA System ARIB STANDARD / ARIB Technical Report の改定について
 - (2) IMT-2000 MC-CDMA System ARIB STANDARD / ARIB Technical Report の改定について
 - (3) LTE-Advanced System ARIB STANDARD の改定について
 - (4) WirelessMAN-Advanced System ARIB STANDARD の改定について
 - (5) デジタル放送に使用する番組配列情報標準規格の改定について
 - (6) 放送用ビット直列インタフェースにおけるパケットデータ伝送方式標準規格の改定について
 - (7) デジタル放送用受信装置標準規格 (望ましい仕様) の改定について
 - (8) デジタル放送におけるデータ放送符号化方式と伝送方式標準規格の改定について
 - (9) デジタル放送におけるダウンロード方式標準規格の改定について
 - (10) 制作・取材用リアルタイム IP 映像伝送における品質確保のためのガイドライン技術資料の策定について
 - (11) 地上デジタルテレビジョン放送運用規定技術資料の改定について
 - (12) BS/広帯域 CS デジタル放送運用規定技術資料の改定について
 - (13) セグメント連結伝送方式による地上マルチメディア放送運用規定技術資料の改定について
 - (14) その他

上記の議案は予定ですので、事前資料として後日規格会議委員に送付いたします開催案内にて、ご確認いただきますようお願いいたします。

APT 人材育成プログラムに対する研修を実施

APT（アジア太平洋電気通信共同体）では、毎年、加盟国の通信事業関連技術者を対象として人材育成研修プログラム（APT J4 プログラム）を実施しています。

今年度は、このプログラムの一環として、「デジタルデバイドを解消するための ICT サービス及び E-application の利活用」をテーマにして、APT 加盟国 11 か国 11 名を対象にした研修が、特定非営利活動法人 BHN テレコム支援協議会の調整のもとに、11 月 6 日から 11 月 27 日にかけて実施されています。

ARIB においても、このプログラムの研修のひとつとして、11 月 9 日に、TTC との協力のもとに、「我が国の標準化に関する活動」についての講義を行ないました。我が国における LTE の導入の現状や地上デジタル放送導入後の周波数の利用計画などについて、熱心な質疑応答も行われました。参加者からは、標準化の意義や重要性について理解でき、有意義な研修であったとの評価を頂きました。



APT 人材育成プログラムの研修に参加の皆様

第 90 回電波利用懇話会を開催

11 月 17(木)に、第 90 回電波利用懇話会を当会の会議室にて開催しました。

今回は、日本電信電話株式会社 NTT 未来ねっと研究所 ワイヤレスシステムイノベーション研究部電波システム技術研究グループ 主任研究員 浅井 裕介 様を講師にお迎えし、「無線 LAN をめぐる最近の標準化動向について」というテーマでご講演いただき、80 名近い会員の皆様に受講いただきました。

講演では、IEEE 802.11WG での無線 LAN をめぐる標準化活動の概括とともに、1Gbps を実現する高速無線 LAN として注目されている 11ac などの最近の動向について、説明がありました。

全体をとおり受講者の高い関心を集め、熱心に聴講いただき、システム間のインタオペラビリティなどに関して、数多くの質疑応答が行われました。



第 90 回電波利用懇話会の様子と浅井様

フィリピン定期総会における ISDB-T 関連機器の展示

11 月 9 日～11 日にフィリピンにおいて KBP (Kapisanan ng mga Brodkaster ng Pilipinas : フィリピン放送事業者協会) の第 37 回定期総会 (37th Top Level Management Conference) が開催され、これに併せて行われた展示会において、昨年に引き続き日本ブースを設け ISDB-T 関連機器の展示を行いました。

ARIB 加盟の 7 社により、ブースには送信機器、受信機器、測定器等を展示し (下表参照)、多くの総会参加者が訪れました。また総会の初日に挨拶を行ったアキノ大統領が日本ブースに立ち寄り、展示についての説明を聞くなど、フィリピンでの ISDB-T 導入の促進に向け効果的なプロモーションが行うことができました。

日本ブースの出展メーカーと展示機器一覧

ACCESS	データ放送デモ
シャープ	LCD
スマートネットワーク (EWD)	IP-STB、STB、車載受信機、One-seg Mobile Phone One-seg 付ポータブル DVD プレーヤー
日本電気	H.264 エンコーダー
日立国際電気	Digital エキサイター
マスプロ電工	壁面取付用 UHF アンテナ、STB、Digital レベルチェッカー
ミツミ電機	IP-STB、STB

(注 STB:Set Top Box)



日本ブース



日本ブースを訪れたアキノ大統領(左)

「周波数オークションに関する懇談会 報告書（案）」
に対する意見の募集

【平成 23 年 11 月 14 日の総務省報道資料から】

1 概要

平成 23 年 3 月 2 日に設置された「周波数オークションに関する懇談会」では、周波数オークションの我が国での導入に向けて検討を行い、今般、「周波数オークションに関する懇談会 報告書（案）」を取りまとめました。

2 意見募集について

(1) 意見募集対象

「周波数オークションに関する懇談会 報告書（案）」(別紙 1)

(2) 意見提出期限

平成 23 年 12 月 12 日（月）17 時（必着）（郵送の場合は同日必着）

(3) 意見募集要領

詳細については、別紙 2 の募集要領を御覧ください。

なお、本意見募集については、総務省ホームページ (<http://www.soumu.go.jp>) の「報道発表」欄及び電子政府の総合窓口 [e-Gov] (<http://www.e-gov.go.jp>) の「パブリックコメント」欄に掲載するとともに、連絡先窓口において配布します。

3 留意事項

(1) 意見の取扱い

提出意見については、意見募集期間終了後に取りまとめて公表する予定です。その際、提出者の氏名及び所属（法人等にあつてはその名称）に関する情報についても併せて公表します。これらの公表の可否について、意見提出フォーマット(別添 2)に記載ください。

なお、意見に対する個別の回答は致しかねますので了承願います。

(2) 意見内容の聴取

提出意見の詳細な内容を把握するため、説明をお願いすることがあります。その場合は、事務局より事前に連絡しますので、あらかじめ了承願います。なお、説明に当たり発生する交通費等は支給されません。

4 意見の提出先

周波数オークションに関する懇談会 事務局

(総務省総合通信基盤局 電波部 電波政策課)

担当：松田補佐、成相係長

電話：03-5253-5909（直通）

FAX：03-5253-5940

E-mail：auction_kento_atmark_ml.soumu.go.jp

（※スパムメール対策のため、「@」を「_atmark_」と表示しています。送信の際には、「@」に変更してください。）

5 今後の予定

提出された意見を踏まえ、次回懇談会において報告書を取りまとめる予定です。

<関係情報>

○周波数オークションに関する懇談会

URL：http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/kenkyu/syuha/index.html

品質評価法調査研究会 音声品質評価法作業班 主任 大出 訓史
(NHK 放送技術研究所 テレビ方式研究部 専任研究員)



音声品質評価法作業班の主任を仰せつかっております NHK 技研の大出と申します。本作業班は、品質評価法調査研究会の下に設置されており、音声品質の評価における様々な課題について幅広く調査しております。近年、デジタル音声信号は、ハイサンプリング化、マルチチャンネル化など多面的な高品質化が進む一方で、様々な符号化方式によるデータ圧縮・高能率化も行われています。これらの多様な音声信号を目的や用途に応じた的確に評価するために、主観評価手法の改善や新たな客観評価手法の提案が求められています。また、同じ符号化方式を同じ評価手法で評価した場合でも、評価実験に用いる音源が異なるとまったく違った結果になることも多々あります。現在、本作業班では、主に評価手法や評価音源に関する過去の事例を調査し、評価実験に用いる評価音源に関するガイドラインを作成しています。

私と ARIB の関わりは、2008 年に当時の主任からの依頼で、主観評価尺度に関する自分の研究成果をオブザーバとして報告したことが始まりでした。符号化などの処理の方式やその評価結果について議論が行われると思っていましたが、評価をする手法自体が議論の対象になっていることに驚きました。委員として参加するようになって一年にも満たない 2011 年 6 月より主任を仰せつかることになりましたが、放送現場のエンジニア、メーカーの開発担当者、大学の先生など様々な専門性を持った委員の方々から多角的なご意見を頂きながら議論を進めています。再生音圧レベルなどの提示条件が評価値に与える影響など、疑問に思ったことは実際に評価実験を行っています。徐々にではありますが評価音源に関するガイドラインも形になりつつあります。

今後も多くの皆様のご協力を得ながら ARIB の活動に貢献できるように努めていきたいと考えております。ご支援の程よろしくお願い致します。

編集後記

先週、縁あって銀座の柴山銀座ビルで行われた「アートビリティ、大賞受賞作品展」を鑑賞してきました。「アートビリティ」とは絵画を通じて障害者の才能を育成していくもので、主催は社会福祉法人東京コロニーです。会場は狭い部屋で受賞作品だけという事もあり、展示されていた作品は十数点と小規模ではありましたが、どれも美しく素晴らしい作品でした。

これらの作品はトートバッグ、カレンダー等の絵柄や雑誌の表紙に採用されており、障害者の自立支援に役立っているとの事です。

絵心の無い私も、少しばかり芸術の秋を堪能した気分になりました。

(山田)

ARIB

Association of Radio Industries and Businesses

ARIB NEWS
発行所

一般社団法人 電波産業会

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 1-4-1 日土地ビル11F
TEL 03-5510-8590 FAX 03-3592-1103
<http://www.arib.or.jp> E-mail arib_news@arib.or.jp